

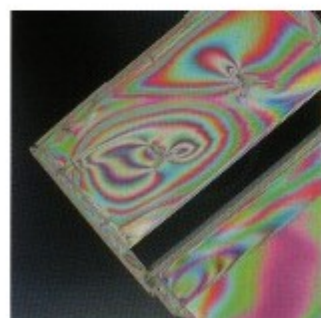
円偏光法

対象機種: LSM-2002、LSM-4200LE、
LSM-8200LE、LSM-501

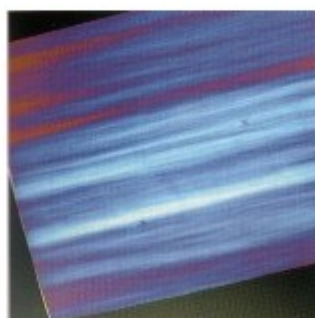


円偏光法では、視野全体が暗く黒色に見えます。観察物を入れると、歪がある部分は明るく白色に見え、歪がない部分は視野全体と同じように暗く黒色に見えます。歪量がより強くなると白色が青、緑、赤などの色に変化します。また、歪の主応力方向の影響を受けずに歪を検出できますので、サンプルを回転させても歪の分布パターンが変わりません。この点が円偏光法の優れた特長です。

観察例



樹脂の「流動状態」



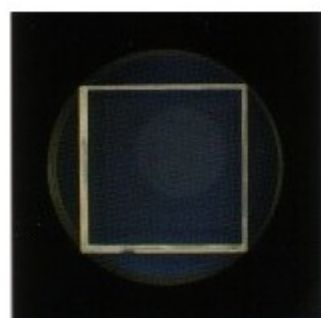
フィルムの「ムラ」



「加工歪」

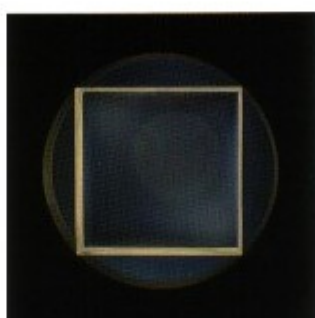


成型品の「歪」「キズ」



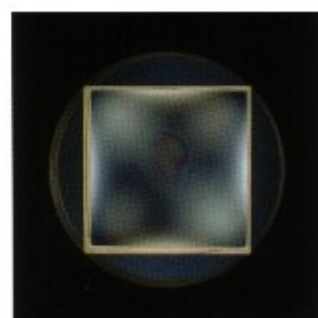
ほとんど歪みのないサンプル

サンプル全体が視野と同じように暗く黒色に見えます。



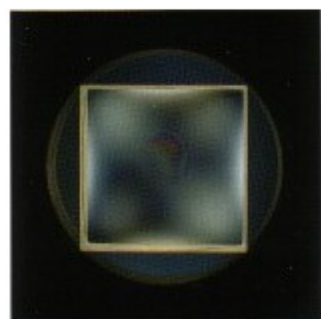
歪量の小さいサンプル

サンプルの外周部(歪のある部分)が白色に見えます。



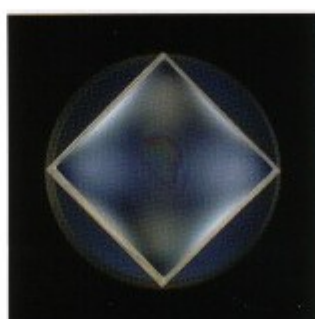
歪量の大きいサンプル

サンプルの外周部(歪のある部分)が内側に広がります。また歪量の小さいサンプルより白色部分が明るく見えます。



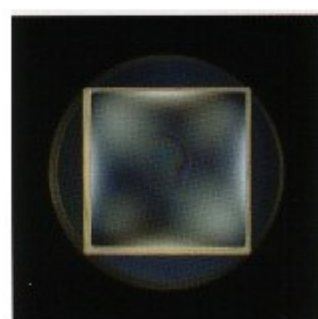
サンプル基準位置/回転0度

ポライザー、アナライザーの透過軸方向のX部分が黒くならないので、歪のある部分は白色に変化します。



サンプルを45度回転

サンプルが回転してもサンプル内の歪のパターンは変わりません。



サンプルを90度回転

サンプル内の歪のパターンは、45度と同じで変わりません。